

「伝える」「つなぐ」「協働する」保護者と歩む事例紹介

倉吉東高校
(鳥取・県立)

学校改革と同時に家庭との連携にも注力。 保護者によるミニ講演「大人の一言」を中心に 共にキャリア教育の推進を担う態勢に

中長期ビジョンに合わせて 情報発信や連携を強化

鳥取県中部を代表する進学校の倉吉東高校は、この十数年で保護者との関係が変化した。20年前はPTA総会の出席率は2割に満たなかったが、今では6割を超える保護者が出席する。このように保護者が学校に関わるようになった背景に、学校改革があるという。少子化による高校再編の動きのなかで統廃合の危機感をもった同校は、90年代から学校改革に着手。2001年、主体的学習者の育成と、社会貢献の志をもって21世紀をリードする人材の育成を掲げた、中長期ビジョン「倉吉東のかたち」を策定した。国内外の高校生を集めた知的交流イベントの開催やボランティア活動など特色ある教育を推進し、国公立大学合格者数は改革以前

の2倍以上に増加した。

こうした変化により、保護者の学校を見る目が変わった。その機をとらえ、同校は情報発信や連携に力を入れるようになったのだ。

「本校の目指す方向や教育内容をもっと知ってもらおうと、情報発信の工夫や連携の働きかけをしてきました。単に連携の外枠だけ整えたのではなく、学校改革で伝えるべき中身があったからこそ、保護者に共感してもらえ、関係の強化につながったのではないのでしょうか」(副校長・稲毛靖先生)

PTA総会で経営方針を伝え HPで日々の様子を発信

同校ではPTA行事の推進や学校ホームページの管理などを「連携発信部」が担当する。4年前にPTA・同窓会・中学校・海外の交流校との連携

や情報発信の担当として再編された分掌である。

情報発信でまず重要な機会となるのは、年度始めのPTA総会だ。全体会で校長が学校経営方針を説明し、各分掌の方針も話す。かつては平日開催だったものを土曜に変更し、保護者1、2の-highクラス懇談会も同日開催。連絡もれないよう、担任は出欠用紙の回収を徹底している。

日常的な情報発信には、数年前から学校ホームページを活用。日々の活動の報告や今後の予定などを、ブログ形式でほぼ毎日発信している。ページビュー数は1日約1000件に及ぶ。一方、PTAも個別ホームページで独自に月3、5回、保護者の視点から行事報告や受験アドバイスなどを発信しており、これも連携発信部が支援する。

また、保護者に進路環境の理解を促



連携発信部長 竹中孝浩先生
副校長 稲毛靖先生

学校data
1909年創立／普通科／生徒数628人(男子312人・女子316人)／進路状況(2015年3月実績)大学133人・短大4人・専門学校8人・その他48人

図1 「大人の一言」の講演テーマ (2015年度)

学年	テーマ	講演者性別
1 学年	空手スポーツ少年団の活動を通じて	女性
	志ありき心のバトン微積分	男性
	天職とは? Part2	男性
	ホストファミリー	女性
2 学年	ホエホエ工隊(おやじの会)の活動を通じて	男性
	あなたの人生が世界一の物語でありますように	男性
	夢をあきらめないで REBORN ~あの時〇〇しておけばよかった~	男性
	姿勢を科学する	男性
	私と演劇	男性
3 学年	家族に支えられ「仕事と地域活動」の両立	男性
	音楽を通じて得たもの~今をよりよく生きる~	女性
	地方創生 ~みなさんに期待すること~	男性
	うまれてきてくれて、ありがとう	女性
	倉吉の活性化と地方創生元年	男性
	裁判員になって、そして考えたこと	女性

そのため、毎年秋に鳥取大学や島根大学などの大学見学会を実施する。冬には1、2年生の保護者を対象に、進路に関する研修会を開催。進路指導主事や外部講師により、大学受験の傾向や対策などの情報提供をする。

取材・文／藤崎雅子

学校の教育方針・目標

●目指す生徒像

主体的な学習者・21世紀をリードする人材

●長期ビジョン

「倉吉東のかたち」…単なる大学進学実績を追うのではなく、文武両道と自主自律の精神のもと、特色ある教育と質の高い授業の推進によって、課題発見力、課題解決力、表現力、人間関係力、肯定的自己概念を育み、社会的自己実現のための教育を推進する

●特色ある教育

国際高校生フォーラム(国内外の高校を招いて行うプレゼンテーションコンテスト) / 上級生によるチューター制度 / 小冊子「学びの復権」制作・配布 / ボランティア活動など

保護者への働きかけ

伝える

- PTA総会
- 学校ブログ(ほぼ毎日)
- PTAブログ(月3~5回)
- 大学見学会
- PTA会員研修会(進路講演)

つなぐ

- 学校行事ごとやPTA委員会ごとの懇親会
- 学年懇親会(PTA主催)

協働する

- 「大人の一言」(保護者ミニ講演)
- 強歩大会の豚汁づくり



保護者の視点から



育友会(PTA)副会長・
高校2年生の保護者
衣笠 優子さん

「無理してやらねば」ではなく
「何か自分のできるかな」

保護者は学校の様子や進路環境が見えにくいので、すごく情報を欲しています。なので、先生方とざっばらんに話せる懇親会では、みなさんもうすごい勢い(笑)。私は保護者同士で情報交換できるのがありがたいですね。強歩大会の豚汁作りも、待ち時間の間に情報交換ができ、保護者も楽しんでいます。

豚汁作りや「大人の一言」などは、「無理してやらねば」という義務感はないです。「何かできるかな」と自分のできる範囲で協力したいと思っています。私はこれまで100人以上のホームステイ受け入れをしているので、今年度の「大人の一言」ではその経験をお話しました。わが家の状況をご存知の竹中先生が具体的にテーマをあげて声をかけてくださったので、それなら自分にもできそうだと。国際交流が盛んな学校でホームステイを受け入れる生徒も多いので、役に立ててもらえればうれしいです。講演後にいただいた生徒さんの感想文は、一生の宝ですね。



大学見学会では、同校卒の大学生と懇談できる。行き帰りのバス車中は、教員への進路に関する質問タイムも



強歩大会に作る豚汁の食材は保護者から提供される。豚汁の味付けは代々父親が担当する「おやじの味」



約10年前から始まった「大人の一言」。保護者は約20分間の話の後、生徒の質問に答える



学校ホームページで行事や授業の様子、部活動の大会結果などについて、写真を交えて報告

行事協力に70人が集結
キャリア意識の醸成にも一役

学校のキャリア教育に保護者が参加する機会もある。5月、保護者によるミニ講演会「大人の一言」を開催する。約10年前、学校から生徒のキャリア意識醸成の支援要請を受け、PTAが企画し実現したものだ。全クラスで保護者が1人ずつ講師として教壇に立ち、計15人が人生経験や仕事について話す。例えば、地元でホテルを経営する保護者は、「地方創生」をテーマに講演。自身の仕事を通じて取り組む地域活性化への思いを語り、「みんなは地元に対して何ができますか」と生徒に投げかけた。

15人もの講演者を集めるには工夫がある。懇親会などの会話から、連携発信部の教員が生徒にも話を聞かせたいと思った保護者に、あらかじめ声をかけておく。一方で、生徒を通じてプリントも配布し広く講演者を募集する。こうしたいいなアプローチが、保護者の共感と支援を引き出しているようだ。10月開催の強歩大会では、生徒のための豚汁作りにも保護者が協力する。当日は父親を含む約70人が集まり、1000食分の調理と配布を行う。

「平日なのに毎年大勢集まってくださるのは、それだけ満足度が高いから。教員や保護者間での情報交換を期待されていると思うので、名札を用意してコミュニケーション促進に配慮しています」(連携発信部長・竹中孝浩先生)

学校側の呼びかけにこたえるだけでなく、年数回は保護者の側から学年懇親会を企画し、担任をはじめ教員も多数出席する。行事ごとの懇親会やPTA役員や保護者間での情報交換を期待されていると思うので、名札を用意してコミュニケーション促進に配慮しています」(連携発信部長・竹中孝浩先生)

「本校のPTA会長は「卒啄同時」卒は、口へんに卒」という禅語をよく使われます。雛が卵から産まれ出る時、雛が中から殻をつつく「卒」(卒は、口へんに卒)と、それを見て親鳥が外から殻をついばむ「啄」が同時に必要を示す言葉で、現代の親子関係にも通じるものです。子どもの自立を促す保護者の支援とは何かを模索しながら、共に生徒を後押ししていきたいと考えています」(竹中先生)